

新体制で活動開始 — 楽しく、安全に —



乳幼児学級 (りんご)

新年度総会開かれる

公民館長 笹 行夫

去る4月24日、公民館令和6年度新年度役員総会が開催され、今年度の活動が本格的に始まりました。昨年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に位置づけられ、

また天候にも恵まれて、「コロナ以前」の行事をほぼ開催することができました。参加された皆さんの顔が嬉しそうに見えたのは、気のせいばかりでもないかもしれません。この機会に、単に以前に戻すのではなく、参加のし易さ、手伝っていただく

方の負担などの面で、時宜に合った形にしようと工夫してきました。本年度もこの姿勢を堅持しながら、安全で魅力的な行事、企画を皆さんと一緒に作っていきたいと考えます。皆様の建設的なご意見、積極的なご参加をお待ちしています。

えんいほくぞい

地域の文化には歴史があり、人々の営みと暮らしが造り出された古代と今の時がある。一色地区では区誌「一色史」があり、平成4年発刊の貴重な歴史証言である。当時の編集委員の記述では、昭和62年運動公園通り、続いて飯田バイパス工事により故郷一色が分断され、生活の在り方や価値観までが大変貌を遂げる中で、地域の姿が数十年後には忘れ去られる運命にあるのではとの危惧が記されている。改めて先輩方の将来を見据えた偉業に感謝する。このバイパス工事から「田井座遺跡」が発掘され、縄文時代の原始住居跡が出現した。更に室町時代には松尾城小笠原領主による松川の灌漑事業で、松尾城まで引水したのが現在の宮川井水路となり、井水の恵みを授かっている。江戸時代後期以来、世帯数40戸程度の小部落が、神社や観音堂(集会所)で、寺子屋(学校)、祭り、信仰など様々な文化を育み、それが今に伝えられている。この貴重な地域財産を語り継ぎ、新しい文化を創造しながら、温故知新をもって未来を拓く次世代への架け橋となれば。

(一色 K・Y)

新役員の紹介

ポスト・コロナの 新時代



分館長会長
西村伸吾

ポスト・コロナの時代で、私達の公民館活動はどうあるべきなのか？
コロナ禍で私達が喪失した大きなもの、それは人と人とのつながりだと感じます。新しく始まっ

人とのつながり



分館主事会
会長
吉川伸二

新型コロナウイルスが5類に移行されて一年が過ぎ、県公民館および各分館の事業がコロナ禍の前に戻り始めています。しかし、コロナ禍で生活様式が変化し「人とのつながり」が、減ってきて

た私達の公民館活動を通じて、人と人とのつながりを取り戻すことに微力ながら貢献したいと考えます。

公民館経験が浅く力不足の私ですが、笹館長の下、各分館の情報共有を図り、連携を密にして、ポスト・コロナの新公民館活動を模索しながら全力で取り組む所存です。

たとも言われています。コロナ禍の前は、公民館は地域の拠り所であり、公民館活動の各種事業で親睦を深めてきたと思います。

「人とのつながり」を大切にして、拠り所として親睦を深められる魅力ある公民館を目指して、見直しを含めて事業を継続していきましょう。皆さんで、公民館を盛り上げましょう。

皆様で楽しめる 文化事業を



文化委員長
林 篤史

本館・分館役員の皆様にご協力をいただきながら文化委員会事業を進めていき、県地区の文化の発展と分館同士の交流・親睦が図れるよう、委員

県を元気に



体育委員長
渡部 益利

令和6・7年度体育委員長を仰せつかった、下山の渡部です。自分のようなものがやっつけていける

見やすい広報作り



広報委員長
加藤 善子

公民館活動の記録を残すのに、すぐ見られる紙ベースの広報誌は大切なものだと思います。

長として精一杯取り組んでまいります。

各行事の開催方法については、コロナ禍で生まれた負担の無い効率的な実施方法も踏まえた上で、皆様で楽しめるような形を一緒に考えていきたいと思っています。2年間、よろしくお願いいたします。

か不安はありますが、笹館長、青山主事さんや、各地区より選出されてきた体育委員の皆さんと協力して、県を元気に地域住民の交流・親睦を進めていこうと思います。

2年間、何とぞよろしくお願いします。

コロナ下では、公民館の活動自体が無く、広報誌を発行するのが大変でした。今年度は色々な行事を復活して行うことができます。

副会長、副委員長 本館委嘱委員



分館長会
副会長
米山 和彦



分館主事会
副会長
川口 充央



文化
副委員長
久保田智代



文化
副委員長
清水 純



体育
副委員長
松下 誠宏



体育
副委員長
桐山直登



広報
副委員長
櫻井勝司



広報委員
田中 学



広報委員
牧野智恵子



学習支援係
坂田寛子



管理係
宮島有子
(敬称略)

公民館職員異動

(転任) 吉川 隆志
(転任) 木下 直子

令和6年度 県公民館事業計画

- ふるさと再発見 ワンデーマーチ 5月3日(金・祝)
- 県地区分館対抗ペタンク大会 6月2日(日) 雨のため中止
- かなえっこどっきどきスクール 7月27日(土)~28日(日)
- いいだ人形劇フェスタ2024 8月1日(木)~4日(日)
- ニュースポーツ講習会 8月23日(金)
- 第36回県地区縦断駅伝大会 9月8日(日)
- 小中PTA公民館合同講演会 9月12日(木)
- ふるさと県ふれあい広場・文化祭 11月2日(土)~3日(日)
- 令和6年度県地区二十歳の集い 7年1月12日(日)
- 第37回県公民館長杯冬季スポーツ大会 7年2月2日(日)
- 飯田市公民館大会 7年2月16日(日)

ふるさと再発見 ワンデーマーチ

総勢500人が参加 5月3日(金・祝)

晴れ渡る空の下で
鼎を再発見

文化委員長
林 篤史



5月3日は晴天のもと、各分館総勢500名の皆様にご参加いただきワンデーマーチを開催することができました。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策として3グループに分かれて行いましたが、委員会で振り返りを行う中で「もっと長い距離を歩いて楽しみたい」「皆でにぎやかに歩けるとよい」といったご意見をいただきましたので、今年度は2グループ編成かつ昨年度よりも少し長い距離のコース



道、神社仏閣についてお話を聞きし、鼎の歴史に触れる貴重な機会となりました。名古屋神社では、奥村仁司区長さんより地域で取り組む防災についてクイズ形式でご説明いただき、子どもたちも興味を持って学ぶことができました。お二人ともお忙しい中、ありがとうございました。終了後は、各分館

で企画・実施しました。鼎公民館から下山方面へ歩き、牛草坂を登って矢高中央公園へ、その後はアツプルロードを抜けて名古屋神社へ行き、最後は萱垣坂をくだって鼎公民館へ戻るコースを歩きました。矢高中央公園では、西鼎の斎藤憲さんより鼎地区の水、段丘、

で盛大な慰労会が行われたことと思います。本館・分館の各役員の皆様のご協力により、無事終えることができました。ありがとうございました。

防災学ぶ機会も

切石分館 森前 勝

5月3日、快晴の天気の中でふるさと再発見ワンデーマーチが行われました。コロナが5類となり切石区からは大人34名、子ども16名の計50名での参加者で矢高公園、名古屋神社を周る約4.6キロを約2時間30分かけて歩きました。

矢高公園で休憩です。ここでのお話は「水と段丘のまち」ということで鼎は段丘が多いというお話を聞いてなるほどと思ひ、ふるさとを再発見しました。次の休憩場所は名古屋神社で、ここでは防災についてのお話で最近では能登半島地震があったばかりなので、色々と考えさせられました。参加者全員楽しい一日を過ごすことができました。

例年になく大勢が

上茶屋分館 森下直樹

5月3日に毎年恒例となっております鼎公民館主催のワンデーマーチが開催されました。上茶屋分館からも、連休中にも関わらず小さなお子さんからご年配の方まで、総勢48名と例年になく大勢の皆様に参加頂きました。

今回のワンデーマーチは下山経由の矢高中央公園・名古屋神社といったコースで、急な坂や階段等がありバラエティーに富んだコースとなっております。

りました。

普段ではあまり見ない景色を見ることができて、参加された皆様にも楽しんで頂けたかと思えます。後の慰労会も大変楽しく行うことができました。本イベント開催にあたりご尽力頂きました本館、分館の役員の皆様大変ありがとうございました。



ようこそお願ひします

鼎公民館主事

青山穂高



この4月から鼎公民館主事としてお世話になっている青山穂高と申します。前任の吉川主事が通算して7年、鼎に在籍した後のことでプレッシ

ヤーを強く感じております。それでも4月以降、窓口に来られた方や、事業の際に顔を合わせた方に「新しい主事さん？」と声をかけていただき、背中を押される毎日です。鼎地区といえは分館活動が充実していると聞いています。まだ右も左もわからない状態でありますので、ひとつでも多くの分館事業に参加させていただき、勉強させていただきます。

伝統と革新 和の心

酒井敏絵さん (上西)



上山で菓匠「赤門や」を営む酒井敏絵さんに話を伺いました。

昭和の終わりごろから矢高神社に隣接する古民家を改築して営業してきたそうです。

酒井さんは中央通りの和菓子店で生まれ和菓子作り一筋で生きてきたといいます。そうした中でも、伝統を守りながら代表的な「赤飯万十」を小豆ではなく大正金時豆で作るなど工夫を重ね努力をされてきました。

現在の店舗は、鳥の鳴き声や虫の声など季節を感じる環境がいいと大変満足しています。

飯田下伊那にちなんだお菓子も、このような環境と菓

子作りに向ける情熱からいくつも作り出されております。例を挙げると飯田線にちなんだ電車のお菓子、猿庫の水を使いその水で味わう水まんじゅう、菓子作りの水は敷地内のきれいな井戸水を使用するなどこだわっています。

こだわりは店自体の雰囲気作りにもみられ、80代を迎えた酒井さんが自筆で丁寧書く商品ポップ等の書です。お菓子の説明も永年のこだわりもさりげなく表現されており、お客様への配慮もあります。

今後については「菓子作りが私のすべて、ほかにはないのでこれからも一生懸命体が続く限り菓子作りを続けます」と話しておられました。

(取材：原 善一郎)

かなえびと

No.55

編集後記

新年度が始まって早一か月、慌ただしい4月が過ぎて、気持ちのよい季節がやってきました。

今年には花粉症がひどかったため、やっとマスクをはずしてせいせいしている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。コロナが5類に移行され、各行事が通常通り実施されています。5月3

いま夢中になっていること

中平 宮下 太 梧 さん (6年生)



失敗の連続でした。

6年生になった今では、ルールを理解して作戦を立て、パスでつないだり、声をかけあうサッカーができるようになりました。

ぼくは、週4回サッカーチームの練習をしています。サッカーを始めたきっかけは、低学年の時に体けんに行ったことでした。初めて出た大会では、ルールもわからず、勝てる試合は、多くないですが、勝つことだけにこだわらず、最高の仲間とするサッカーがぼくが今、夢中になっていることです。

日2024ふるさと再発見ワンデーマーチが開催され、かつての賑いが戻ってきました。薄れつつありますが、各行事に参加をし、出会い・ふれあい、支え合うことを大切にしていきたいと思っています。そして、いろんな場面で勉強をし、自分自身が成長できる一年でありたいと思います。

(Y・I)



No.129